

## 行政視察報告書

委員会名	安中市議会 経済建設常任委員会
参加議員	小川剛委員長、巽久男副委員長、柳沢吉保委員、小林克行委員、小林訂史委員
日 程	令和6年(2024年)5月13日(月)、5月14日(火)、5月15日(水)
視 察 先	福井県越前市、京都府長岡市、京都府向日市
視察内容【1日目】	
視察自治体	<p>福井県越前市</p> <p>越前市議会吉田議長 様</p> <p>産業観光部川端部長 様、産業観光部産業政策課松井課長 様</p> <p>観光誘客課大塚副課長 様、産業政策課山本主幹 様</p> <p>総合政策部地域交通課山口主査 様</p>   <p>小川委員長挨拶</p> <p>越前市議会吉田議長歓迎挨拶</p>
視察項目	<p>1. 北陸新幹線“越前たけふ駅”周辺での官民連携 PPP プロジェクトについて</p> <p>2. 越前たけふ駅周辺整備推進事業 事業実施計画書について</p>
概 要	<p>令和6年3月16日に北陸新幹線が敦賀まで延伸しました。越前市にも新しい新幹線駅、「越前たけふ駅」が開業し、新幹線駅周辺まちづくりを進めています。本市にある安中・榛名駅が長野新幹線の名で開業したのが1997年でしたので、27年経過しました。安中・榛名駅前の周辺整備(企業誘致も含む)や新駅構想が本市もあります。越前市の駅を中心とした街づくり等を学習し本市に活かすために視察先に選びました。</p> <p>越前市は地域のポテンシャルを活かしつつ未来的な挑戦を行う街づくりを進めるためのテーマを「地域特性を活かした未来都市の創造」としました。地域特性を活かすとは伝統と先端の共生、自然と都市の共生、多文化の共生のことであり、目指すべき方向性の一つとして、人の手と自然を感じ、背景にある歴史・文化を感じるまちです。具体的には緑と建物がバランス良く配置され、緑の景観に溶け込んでいる、整備された林のようなイメージですので「フォレストシティ」としています。</p> <p>未来都市の創造は「地方都市だから可能となる、既成概念にとらわれない自由な発想のもと、越前市版未来都市を目指しています。立地するあらゆる産業や施設、場面あるいは事業展開過程において、未来的なチャレンジを進めるまちのことです。すべての産業のスマート化を目指し、越前市の拠点となるエリアの創造をすることから、もう一つの方向性を「越前市版スマートシティ」とし、まちづくりを進めています。</p> <p>安中市も地域のポテンシャルを活かす街づくりを進めることも必要です。新しい発想で産業や地域特性を活かした街づくりを進め、選んでもらえる市にするため、越前市の取り組みを学びました。</p>

説明内容	<p><b>【越前市の概要】</b></p> <p>越前市は、福井県のほぼ中央に位置し、市の中央を北陸自動車道と国道8号が縦断し、関西・中京圏などの主要都市や福井市・敦賀市など周辺都市との交通の動脈となっています。また、両路線に交差するように国道417号や県道、主要地方道が横断しています。地形は、東部の越前中央山脈、西部の丹生山地、南部の「越前富士」と呼ばれる日野山(795メートル)など、400から700メートル級の山々に囲まれ、武生盆地をつくっています。武生盆地の中央を、県内三大河川のひとつ日野川が南北に貫流し、九頭竜川と名を変えて日本海に注いでいます。気候は、夏は高温多湿、冬は降雪量が1メートルを超えるもある日本海側特有の気候です。</p> <p>越前市の歴史は大変古く、旧武生市には越前国府が置かれ、政治・経済・文化の中心地として栄えました。平安時代には「源氏物語」の作者、紫式部が越前国司として赴任した父とともに多感な青春時代の一年余りを暮らした地でもあります。現在も、まちなかの辻や地名、行事などにその歴史と伝統の重みを感じることができます。平成17年(2005年)9月まで武生市と今立町が置かれ、平成17年(2005年)10月1日に両市町が合併し、「越前市」が誕生しました。市の人口は2005年の87,742人をピークに減少し2024年3月末で80,173人となりました。人口減少の要因として、若年層の県外流出があります。また、第1子出産年齢の上昇や夫婦の出生子どもの減少、高齢化に伴う死亡数の増加が挙げられます。</p> <p>総面積…230.70km<sup>2</sup>(安中市 276.31km<sup>2</sup>) 人口…80,173人(安中市 53,556人(令和6年3月末現在))</p> <p><b>【越前市における越前たけふ駅周辺での官民連携(PPP)プロジェクトについて】</b></p> <p>I. 北陸新幹線越前たけふ駅の開業</p> <p>(1) 北陸新幹線のあゆみや駅について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①これまでのあゆみ <ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和45年5月 全国新幹線鉄道整備法公布</li> <li>・昭和47年6月 基本計画決定</li> <li>・昭和48年11月 整備計画決定及び建設の指示</li> <li>・昭和57年3月 北陸新幹線の駅・ルートの概要決定 説明する産業観光部川端部長</li> </ul> </li> <li>福井県内には芦原に駅を設ける 福井駅は現駅に併設することとしたい 南越地方(武生付近)には1駅を設ける ・平成24年6月 金沢・敦賀間の認可 ・令和6年3月 16日 北陸新幹線 金沢～敦賀間 開業</li> <li>②高速交通網 <ul style="list-style-type: none"> <li>その他高速交通網として道路も開通し、特に首都圏・中京圏へアクセスの大幅な向上が見込まれる <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年11月 国道417号(冠山峠道路)開通</li> <li>・令和8年春には 中部縦貫自動車道の全線開通</li> <li>・越前たけふ駅に「かがやき」が1日2往復停車することが決定</li> <li>・関東甲信越に加え、金沢をはじめとする北陸エリアのアクセスが大きく向上し、観光客</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>
------	--

の増加が期待される。

③越前たけふ駅について

駅のデザインはこうのとりが飛翔する未来への道標となる駅「伝統・文化を未来につなぐシンボルとしての駅」。越前市に飛来するこうのとりをモチーフに越前市の美しい自然環境を未来へつないでいくシンボルとなる駅をイメージ

(2) 新幹線駅周辺のまちづくりに向けた、これまでの検討

駅周辺エリアの特徴として、新新幹線駅を中心に、武生IC・国道8号が1km圏内に集積する「交通結節点」としての特徴を生かし、まちづくり・企業誘致を推進。

・エリアの広さ 約100ha、地権者は175名、田畠約600筆

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度～
新幹線駅周辺のまちづくり	○南越駅周辺整備構想(仮称) (平成15年4月)	南越駅周辺まちづくり計画	新幹線駅周辺まちづくりガイドライン 脱炭素型地域循環共生圏モデル形成調査	越前たけふ駅周辺整備
	○北陸新幹線南越駅周辺整備基本計画 (平成27年12月) ・民間活力の導入			
産業振興	越前市産業活性化プラン	オープンイノベーションの推進 新たな産業集積地の検討	越前市オープンイノベーション推進ビジョン	事業展開
～計画策定～				

①南越駅周辺まちづくり計画について(基本理念)

2023年春に開業を迎える北陸新幹線南越駅(仮称として)周辺のまちづくりの方向性と土地利用の方針を示す、南越駅周辺まちづくり計画を策定。

南越駅周辺で「**地域特性を活かした未来都市の創造**」を目指したまちづくりを!



### まちづくりのテーマ

#### ●地域特性を活かす

伝統と先端の共生、自然と都市の共生、多文化の共生のことであり、目指すべき方向性の一つとして、人の手と自然を感じ、その背景にある歴史・文化を感じるまち

#### ●未来都市の創造

地方都市だからこそ可能となる。既成概念にとらわれない自由な発想のもと、越前市版未来都市を目指すことで、立地するあらゆる産業や施設、場面あるいは事業展開過程において、未来的なチャレンジを進めるまち

### まちを包み込むメッセージ

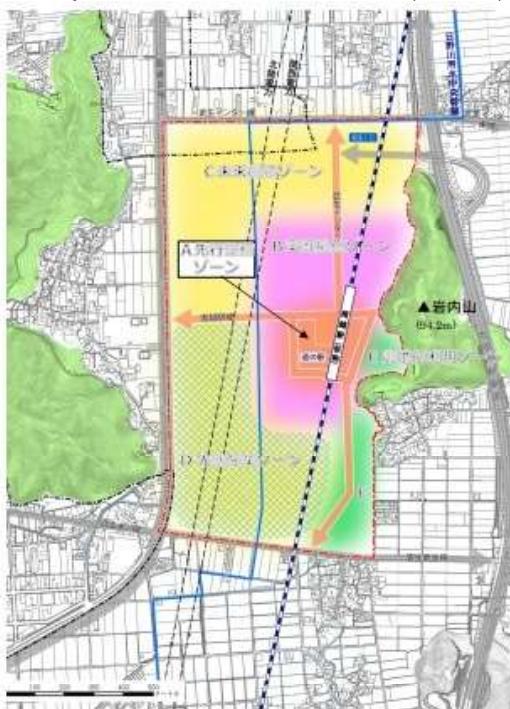
#### ●フォレストシティ

緑と建物がバランスよく配置され、緑の景観に溶け込んでいる、整備された林のようなイメージ

#### ●越前市版スマートシティ

すべての産業のスマート化を目指し、越前市の機能となるエリアの創造をするイメージ

### 対象エリアを5つのゾーン分け(示した)



#### ●越前らしさを実現する土地利用ゾーニング

・需要に応じた段階的な開発を進めるため、対象エリアを5つのゾーンに分け、それぞれの位置づけを以下通りとする

##### ①A先行整備ゾーン

- ・駅開業時に「新幹線駅としての基本機能」の導入を積極的に図るゾーン
- ・道の駅、ホテル、コンビニ、レンタカー、P & R駐車場など

##### ②B交流拠点ゾーン

- ・市民と来街者が交流するゾーン
- ・市民生活を支える幅広いサービス施設や、丹南地域の伝統産業や観光拠点と連携した施設などの集積によるシナジー効果を期待

##### ③Cゾーン：未来創造ゾーン

- ・優良な農地に配慮しつつ、段階的に整備を目指す「にぎわい」のゾーン
- ・雇用の創出や集客を図るための産業（商業・物流等）や集客施設など

##### ④Dゾーン：先端産業ゾーン

- ・優良な農地に配慮しつつ、越前市の次世代を担う産業が立地するゾーン
- ・先端技術を活用したAIやIoTの拠点

##### ⑤Eゾーン：農地の利用ゾーン

- ・長期営農希望者が農業を継続するゾーン
- ・スマート農業、6次産業施設の導入など

A先行整備ゾーンはB交流拠点ゾーンの中でも先行して整備を図る

D先端産業ゾーンはC未来創造ゾーンの一部で先端産業の集積を図る

※本ゾーニングを基に、将来の需要動向に応じてゾーンの拡大・縮小を図る

### ②7つの開発方針を立てる(ガイドラインを策定)

①虫食い開発の防止、②開発周辺の営農への配慮、③自然を感じるまちなみ景観の創出、④緑につつまれた空間の形成、⑤次世代を見据えたSociety5.0の推進、⑥安全安心のまちづくり、⑦新幹線駅周辺にふさわしい施設立地の誘導

③パートナー企業の選定経過と、選定後の取り組み

令和3年 3/22～サウンディング型市場調査で民間開発事業者の参画意向等を確認、5/26～パートナー企業の公募→8/3 パートナー企業に戸田建設を選定、8/19 基本協定を締結；本プロジェクトを進めていくために必要な協力をしていくことについて地元(まちづくり協議会)・市・パートナー企業との間で基本合意

具体的な方向性の検討 企業誘致 地元・関係団体等との協議

地権者戸別訪問(R3.11～) 土地利用意向アンケート調査

※土地利用アンケート調査は 175名へ最新の土地利用意向等を確認した。6割の方は前向き、2割は条件次第、2割は反対となった。

### (3) 駅周辺整備の進捗状況

#### ①道の駅「越前たけふ」令和5年3月 18 日オープン

新幹線駅開業のおよそ1年前となる3月、駅舎の隣接エリアにオープン。丹南エリアを代表するグルメ(海の幸など)や伝統工芸品の提供・販売のほか、観光案内所機能を備える。運営会社は鮮魚丸松という魚屋さんです。

・道の駅南側には多目的広場、交流広場があり、イベント、アーバンスポーツ(バスケットボールコートなど)が楽しめる、にぎわいの広場です。災害時臨時駐車場、調整池機能を兼ねています。

道の駅西には県の災害用備蓄品等が備えている、施設があります。

・駅西交通広場は、バス乗降場やタクシー乗降場、短時間駐車場(12台)があり、駅東にはパーク・アンド・ライド駐車場として第一駐車場北側315台、第2駐車場南側122台が駐車できます。トータル600台の、無料駐車場が整備されました。

#### ②道の駅越前たけふ来場者について

開業から約1年で当初目標としていた25万人を大きく上回り、60万人の来場者がありました。

#### ③無料駐車場の課題

土日は満車の状態が続いている。新幹線に乗ろうとする人が駐車できないケースもあり、新幹線の乗客や高速バス利用者が優先的に駐車できる運用を探っています。北陸自動車道武生 IC に近いため車の乗り合いで遠出する人の集合場所になり、車を乗り捨てる方もいるとみているので車を置く方にアンケート調査を行います。

### (4) 新幹線駅周辺のまちづくりと企業誘致の方向性

企業や人材の集積を目指して、研究施設等のほか、ホテル・商業施設等の誘致を行っています。先進的な農業の実証実験など、広大な農地エリアとの共存についても検討しています。

#### ①越前たけふ駅周辺への企業誘致

短期・中期での誘致を目指す産業等

##### ・先端の研究施設

本市に所縁のある企業(福井村田製作所)の誘致を目指す。

##### ・ホテル、飲食施設等

新幹線駅が備える基本的機能として誘致を目指す。

##### ・商業施設

地域密着型の特徴ある商業施設の誘致を目指す。

##### ・「食と農」関連施設

市内の農業者との連携も視野に入れ、園芸施設や植物工場、農業6次化施設などの誘致を目指す。また、誘客コンテンツとしても期待。

##### ・学術研究・人材育成施設等の次世代交流拠点

ベンチャー・研究者・クリエイターなど企業や人材が集まり、さらに次世代人材の育成が循環して生まれる拠点を目指して、整備を検討

## ②越前たけふ駅周辺開発プロジェクトについて

市が誘致を進めてきた株式会社福井村田製作所のセラミックコンデンサの研究開発センターは、2023年11月6日に正式に立地を表明しました。令和8年1月竣工に向け造成工事が始まりました。新しい開発センターには約800人の研究者が集まる計画で雇用が生まれUIJターンの増加や更なる企業誘致の進出につながるものと期待しています。特に重点的に誘致を進めているホテル事業者にとっては、宿泊需要が進出の重要な要素となるので、今回の立地決定は大きな追い風となると期待しています。



▲研究開発センターイメージ【(株)福井村田製作所提供】

## ③越前たけふ駅周辺、次世代交流拠点について

市民や多様な人材、企業などが市内外から集い、次世代の越前市が創られる場所となることを目指して、「次世代交流拠点」(越前たけふ未来創造基地)の整備を検討。

越前たけふ未来創造基地については、ライフサイエンスの研究機関や子どもの遊び場、アートなど多くの人が集い、活動する施設、エリアにしたいと考えます。

市長と副市長の人的ネットワークを駆使し、様々な民間企業に対し、働きかけを行っています。手ごたえ感触に基づいて、実現可能性のある基本構想を策定します。

## ④企業立地促進補助金について

- ・企業が生産施設、研究開発施設、情報関連施設等を新設・増設する場合に補助金を交付することで設備投資を支援
- ・越前たけふ駅周辺において、特定業種(研究開発施設、ホテル・商業施設・物流施設)を強力に支援

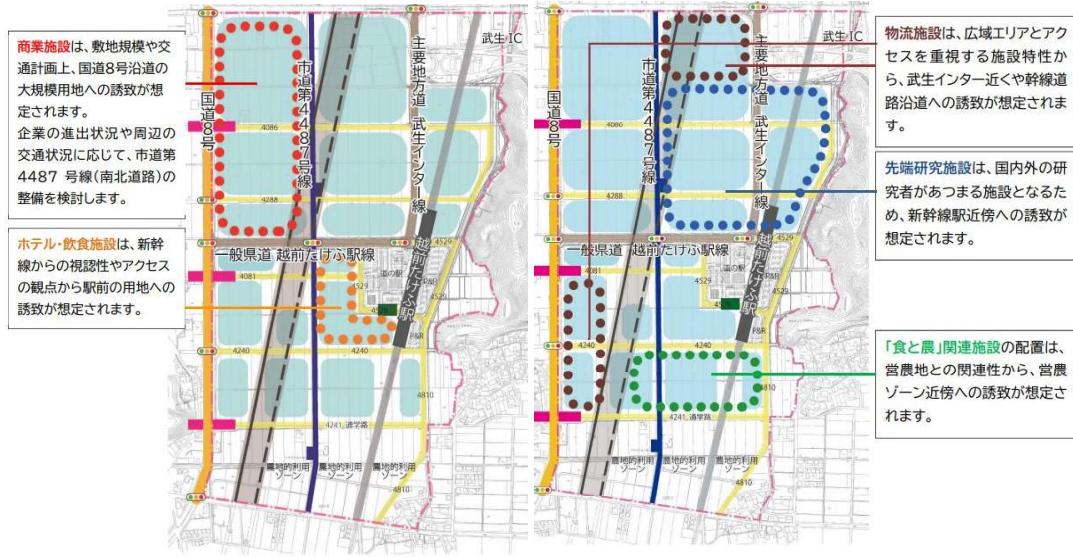
### ■越前市企業立地促進補助金、越前市空き工場等活用助成金及びサテライトオフィス誘致補助金

越前市内で、次の要件等を満たす工場等の新設、増設又は更新を行う場合、補助金を交付します。  
なお、補助率は、県内トップクラスの最大20%です。

種類 立地ア イリ	対象施設	種別	交付要件(下記定資産額+選択要件)		補助対象経費	補助率	1回限度額	加算措置 ※加算分は1回限度額には含めない
			設下固定資産額	選択要件				
企業立地補助金 ※1	生産施設	A	3億円以上	以下のいずれかに1つ以上該当すると認められること	(1)土地の取得費・造成費 (2)建物建設費 (3)機械設備等設置費 上記の合計※5	5%	3億円 (5億円※6)	新規雇用者のうち、 UIJターン者 50万円/人 (1回限度額:2,000万円)
		B	2,000万円以上	①UIJターン者の増加に寄与すること※3-4			1,000万円	
	研究開発施設等	A	3億円以上	②業界において先進性のある品目の生産や研究開発、事業活動に資すること		10%	2億円 (3億円※6)	
		B	2,000万円以上	③社会課題の解決に寄与する品目の生産や研究開発、事業活動に資すること			1,000万円	
	情報通信関連施設	-	3億円以上				2億円 (3億円※6)	
越前たけふ駅周辺エリア ※2	研究開発施設等	C	25億円以上	すること 【小規模企業者限定】 ④省人化に資すること※必須要件	(1)土地の取得費・造成費 (2)建物建設費 (3)機械設備等設置費 上記の合計※5	20%	5億円※7	新規雇用者のうち、 UIJターン者 50万円/人 (1回限度額:2,000万円)
		-	3億円以上	【ホテル・商業施設・物流施設限定】 ⑤地域経済への波及効果が認められること※必須要件			4億円※7	

## ⑤事業実施計画書の作成

令和6年(2024年)春開業の北陸新幹線「越前たけふ駅」周辺エリアへの、円滑な企業立地を誘導することを目的に、事業実施計画書を策定しました。事業実施計画書では、基礎データとなる土地・インフラ、必要な手続き等の情報を掲載しているほか、将来の企業進出が進んだ際のケーススタディを行い、予見される課題等を抽出しています。今後の進出を検討する際の参考となります。記載は配置検討案です。



## (5) 地域公共交通との連携について

越前たけふ駅からの2次交通として、多様な交通手段でそれぞれが補完し合い移動手段を確保する。越前たけふ駅と武生駅を繋ぐ、駅間シャトルバスを運行している。

### ① 越前たけふ駅

新幹線利用者、来訪者に対応した対応した、駅西交通広場を利用した2次交通タクシー、送迎バス、短時間有料駐車場、はぴバス、高速バス、デマンド運行とレンタカーやレンタサイクルを準備

### ② 武生駅

中心市街地、県内広域へ移動する日常の移動手段

ハピラインふくい、福井鉄道、市民バス、路線バス、タクシー、デマンド運行、レンタサイクルを準備

### ③ デマンド交通について

新しい交通形態の実証を行っています。デマンド交通路線バスとタクシーの中間的な位置にある交通手段です。様々な種類がありますが、一般的には電話やインターネットからの予約に応じて、希望の時間帯に車両が指定された地点(停留所)まで迎えに来て、目的地(停留所)まで移動する交通のことです。路線バスや市民バスのように決められた時刻表や路線がないことが特徴で、日常のお出かけや、観光地の移動に利用できます。

○運行日・時間・電話予約受付時間は、毎週の月、火、木、土曜日の午前8時～午後5時です。電話受付は、月曜日～土曜日の午前8時～午後5時です。インターネット受付は24時間となります。

## (6) 移住定住事業について

令和5年度は学生Uターンと幅広い移住の促進を目指して取り組みを進めています。越前市では、子育て世帯を手厚く支援するとともに、「住む」、「働く」を応援しています。

- ・移住相談277人(令和4年度225人)
- ・移住相談件数193人(令和4年度151人)
- ・メタバース移住相談・交流会の試行、計3回48人の参加

課題として移住者への幅広いアプローチとして、届く情報の発信で接点を作る。また、継続したコミュニケーションとして接点を持った後に継続して発信することとします。

## 越前市への移住に向けた活動を支援します！

ブランド戦略課  
0778-22-3016



### 質疑応答

質) 企業誘致について、企業への営業やトップセールスについて聞きたい。

答) 市長や副市長の特別職を中心に積極的に回っています。特にホテルの誘致は県の観光連盟関係にお願いし、あとあらゆる手を使い回っていました。引き続き話し合いを継続している企業やホテルもあります。村田製作所は越前市に大きな工場があり、研究所を設置したいとの意向もあり実現したものです。今後も積極的に回り誘致活動を進めていきます。

質) 外国人が多いと聞くが、犯罪等の発生はどうか。

答) 5,025人の外国人がおり、ブラジル人3,500人、ベトナム600人、フィリピン人250人、中国人160人、他の外国人であります。犯罪は多くはありませんが若干あります。トラブルはごみの問題等を聞きます。

質) 外国人が増えている要因を聞く。

答) 大きな製造会社で外国人労働者の雇用を増やす取り組みが進められています。

質) 事業承継の問題があると思うが、伝統工芸の跡継ぎ問題はどうか。また、安中市は災害が少ない。浅間の爆発による災害は予想されるが越前市はどうか。

答) 刃物職人は世界を相手に事業展開している。職人に成りたい方も外から来ている。和紙については単価も安く、将来を見ても事業承継が難しくなってくる。タンスは時代の流れで婚礼の形も変わって来たので厳しい面もあるが、タンス職人さんは材料があれば何でも作れる技術があるのでタンス以外の雑貨等の新しい製品を作り販売している。

越前市も自然災害は少ない地域で、能登半島地震による影響は殆どありませんでした。石川県に近い福井県内の市町村では若干被害が起きました。富山県は地震が少ない県として売ってきましたが、氷見市など大きな被害が出ていて、企業等も多く被災しました。富山だけではない分散型を考えている企業もあるようです。福井県に多くの企業が向いてくるのではないかと推察されます。

	<p>質) 田畠が約600筆あるが後継者はいるのか。</p> <p>答) 多くの田畠は専業農業者に貸しているのがほとんどです。後継者は働きにでている方が多くなり農業を続ける後継者は少なく、今後はかなり厳しくなっています。</p> <p>質) 女性の方が福井で育ち進学で京都の学校を出てそのまま京都等の企業に就職してしまい戻らない方が多いと話していた。今後、越前たけふ駅前に村田製作所の研究拠点ができるが、女性の雇用が増える見込みがあるか。</p> <p>また、駅前駐車場を600台作ったが駐車場が満杯で新幹線利用者が置けない事態になっていると報告があったが、解決方法等について聞く。</p> <p>答) 女性の雇用で加算額を変えた時もあった。女性が働く場を増やさなければならぬ。これまで製造業を中心に企業誘致をしていたが、今後は女性が正社員で働く企業に来てもらえるように、越前市も女性雇用を意識はじめたところです。</p> <p>また、駐車場は無断で停車している方もいます。ゲートも何もないで何の目的で車を停めているかを来週からアンケートを取る予定です。道の駅とパーク＆ライドの駐車場は分けていますが利用目的をはっきり分析したいと思います。新幹線と高速バスの方だけの駐車場とはっきり分けたいと思います。</p> <p>質) 越前たけふ駅前開発の中で人が住むような居住地としての考えはあるのか。</p> <p>答) まちづくり計画の段階で居住誘導地域にしないと決めています。たけふ駅の方面を居住誘導区域としています。</p> <p>質) デマンド交通で新しい交通形態の実証実験をしていますが登録状況等はどうか。</p> <p>答) 登録は450名の方にいただきました。登録者は地元の方が多いが、県外の観光客の登録もあります。利用状況は毎月徐々に増えているが微増です。市の方から周知をしなければならないと考えています。市民バスを使って特定の方の利用が増えています。</p>
市への提言 または要望	<p>今回視察先に選んだ越前市は、北陸新幹線整備計画決定から半世紀を経て、新幹線駅開業という新しい時代の幕が開けました。3月16日に北陸新幹線の敦賀までの延伸、越前たけふ駅の開業という記念すべき事業です。また、越前たけふ駅周辺開発プロジェクトを計画的に進めています。企業誘致は令和8年1月に竣工予定の福井村田製作所のセラミックコンデンサ研究開発センターに続くものとして、現在はホテルの誘致を強化しています。これまで協議を重ねてきた事業者もあり、具体的な検討を進めているそうです。企業誘致の中心は、市長と副市長を中心でトップセールスをかなり積極的に進めているとの事でした。安中市においても市長・副市長の今後の更なるトップセールスに期待するところであります。</p> <p>駅前周辺開発は「新幹線駅周辺まちづくり計画」を作成し、地域特性（越前らしさ）を実現する土地利用ゾーニング・開発スケジュールを示し、対象エリアを5つに分け、開発スケジュールのイメージをつくり進めています。また、令和3年5月にパートナー企業を公募し、8月に戸田建設と一緒に開発を進める民間開発事業者として選定し、8月19日に基本協定書を締結しました。安中市でも「都市計画マスタープラン」、「立地適正化計画」、「地域公共交通計画」の3計画を策定中であり、今後、進めていく西毛広域幹線道路とJR信越本線の安中駅と機部駅間への新駅設置に向けた検討が進むことが想定されるので、民間を巻き込んだ計画・事業を進めることも必要です。越前市は駅前開発として、駅前に村田製作所の研究部門を誘致したような官民連携で駅前の活性化す施策を進めるべきです。駅を中心とした賑わいのある街づくりを進める事が重要です。</p>

越前たけふ駅前に2023年3月18日に開業した「道の駅 越前たけふ」の来場者も好調で、開業から約1年で60万人を突破しました。目標は初年度なので25万人でしたが大きく上回りました。魚介類や伝統工芸の物販、海鮮レストラン、屋外広場を備えている建屋とすぐ隣には、福井県が作った、防災スペースの建屋があります。トイレや災害用の備蓄品が置かれしており、災害時の避難場所として最適です。本市の建設予定の道の駅も国・県と連携し、防災用の建物建設の検討を進めて欲しいと思います。

安中市にも北陸新幹線安中・榛名駅があります。長野新幹線の名で 1997 年開業したので 27 年経過しました。安中・榛名駅前の周辺整備も新幹線駅周辺計画を再度作り、見直すことも一案と感じます。越前市の駅を中心とした街づくり等は本市にも参考になる視察となりました。

#### 視察内容【2日目】

視察自治体	京都府長岡京市
	長岡京市市議会議長 白石 多津子 様 長岡京市議会事務局 局長 城田 賢二 様 長岡京市環境経済部 商工観光課 課長 山田 一步 様
	 
	異 副委員長 長岡京市 市議会議長 白石様
視察項目	I. 長岡京市中小企業振興基本条例について
概 要	安中市では、地域経済を支える中小企業の振興のため、令和2年3月に中小企業振興基本条例を制定しました。安中市では、市内事業者の約9割以上が中小企業となっており、この条例では中小企業振興施策の基本的事項や市の責務、中小企業者、関係機関の努めるべき役割などを示し、地域経済の活性化と併せ市民生活の向上を目的としています。しかし、施行後の3月から新型コロナウイルスが蔓延し、中小事業者の環境が一変し、政府が中小企業や飲食店事業者を支援する、支援金や給付金の手続き等で条例施行後、中小企業や事業者、商工会、行政等の関係機関で中小企業振興基本条例を踏まえた取り組みが進まなかつたとの認識であります。
	長岡京市は令和4年10月1日、持続的なまちのにぎわいのために、市内事業者の99%以上を占める中小企業が“育つ”環境を作るために「みんなで取り組みましょう」という『約束』としての「条例」が制定されました。コロナ禍の最中に策定されたので安中市の条例策定のタイミングとは全く異なりますが、中小企業の振興で地域経済の持続的な発展を目指し、その実現には、中小企業だけでなく関係団体や市民一人ひとりが、「市内の中小企業の発展が市民生活の向上に繋がること」の理解を深めていただく事が必要であるとの理念で策定されました。
	安中市も中小企業振興基本条例をもっと市民にも理解してもらう取り組み等が必要です。地域経済の持続的な発展が市民生活をより良いものにすることになりますので今回は「中小企業振興基本条例」について長岡京市の取り組みを学び、安中市の中小企業が元気になつていただく条例を目指すことが必要と考え視察先に選びました。

## 説明内容

### 【長岡市の概要】

長岡市は、京都府の京都盆地の西南部に位置し、北は向日市・京都市、東は京都市、南は大山崎町、西は西山連峰を境に大阪府と接している。東西約 6.5 キロメートル、南北約 4.3 キロメートル、総面積 19.17 平方キロメートルで東西に長い長方形をなしています。約 65 パーセントは可住地の平たん部であります。西山山地は、近畿圏近郊緑地保全区域に指定され、景観の保全が図られています。中央部は住宅・商業・工業・農業に広く利用されています。東部は工場適地に指定されており、工業が盛んです。

交通は、東部を JR 東海道本線、中央部を阪急京都線がそれぞれ並行して通過し、京都へは JR 長岡京駅・阪急長岡天神駅から 10~15 分、大阪へは 25~40 分で行くことができます。東海道本線の東側には東海道新幹線・名神高速道路・国道 171 号線が縦走しており、交通の便に恵まれています。

気候は、山城盆地特有の晴れの日が多く、おおむね温和で、京都市内の盆地気候よりもしのぎやすいと言われています

本市の歴史は古く、豊かな水と緑に恵まれ、現在に至るまで連綿と人々の生活の場となっていました。常に中央王権とつながっていたことがわかっています。また 6 世紀初めには繼体天皇による「弟国宮」が、8 世紀末には桓武天皇による「長岡京」と二度にわたって宮都が置かれました。平たん部では米・麦・茶などの農産物を、西部丘陵地では特産物「たけのこ」を産出する農村として、豊かな土地、大都市の近郊、交通の至便さなどに恵まれて発展を続けてきました。人口は昭和 45 年に 5 万人を超える、昭和 47 年 10 月 1 日に市制を施行し「長岡京市」となりました。市名は古代の都「長岡京」から命名したもので、都の名前を市名としているのは全国でもここだけです。その後も人口は増え続け、平成 23 年 5 月 9 日には 8 万人を突破しています。

総面積…19.17km<sup>2</sup> (安中市 276.31 km<sup>2</sup>)

人口…82,258人(安中市 53,556人(令和6年3月末現在))

### 【長岡市の中小企業振興基本条例】

#### ○長岡市の商業の現状について

##### ①商業の現状について

市内経済は縮小傾向にあります。

	年間商品販売額(億)	商店数
1994年(平成6年)	638億円	657事業所
2016年(平成28年)	502億円	352事業所

長岡市の中小企業の割合は、99.6%とほとんどが中小企業です。

#### (1)なぜ中小企業振興条例が必要なのか

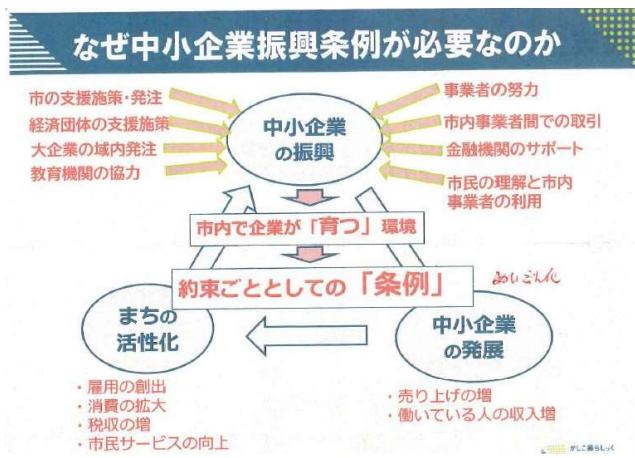
中小企業の振興→中小企業の発展

売上の増で働く方の収入増

→まちの活性化→

雇用創出、消費拡大

税収増、市民サービス向上



## (2) 条例制定の経緯について

○平成28・29年(2016年・2017年)

長岡市商工会から「条例」制定の要望が提出される

⇒市長回答「条例の主体は事業者。事業者の機運醸成が必要」

○令和元年(2019年)

商店会連絡協議会(市内4商店街の集まり)が中心になり「検討準備会」を立ち上げ。

⇒同時期に事業者アンケートを実施=回答率6.4%(興味がない)

○長岡市商工会が「中小企業振興条例」を考えるための委員会を設置、学識を招聘した勉強会等を経て、徐々に機運の醸成。(京都大学の先生に入ってもらう)

⇒「条例県津委員会」(商工会内部)で、各部会での議論。意見集約の上、「要望」という形に取りまとめ。

○「検討準備会」(商工会連絡協議会・市・商工会)での議論

条例とは何か、条例が必要かを含めた議論。

⇒検討準備会は、令和元年7月～令和3年5月までの計10回

○各団体からの要望書等の提出

・令和2年12月；京都同友会乙訓支部；「提言」

・令和3年4月；長岡市商工会；「要望書」

・令和3年5月；長岡市商店街連絡協議会；「考え方」

検討準備会は、上記要望書等の提出を受け、一定の機運が醸成されたとして、「検討会」の発足に向けた提言で終了。次のステップに移行できる！

○令和3年7月に「(仮称)長岡市中小企業振興条例検討会」を立ち上げ

(事務局；市・長岡市商工会)コロナ禍でも相互の距離感を重視した運営

事業者をどうに巻き込んでいくか。

《座組》

学識経験者；商工会の勉強でお世話になった、京都橘大学の岡田教授

経済団体；商工会、商店街連絡協議会、乙訓同友会

市民公募、大企業、金融、医療・福祉、農業

行政(府、市)

金融機関は、京都銀行、京都中央信用金庫、京都信用金庫等

※長岡市の特色を鑑み、医療・福祉（済生会病院）、農業が委員として参画

※コロナ禍であったが工夫した運営を行った。

○（仮称）長岡市中小企業振興条例検討会

・令和3年度；3回 目的・理念の共有と議論

・令和4年度；3月26日

　　中小企業振興条例シンポジウム

～市民もいっしょに考えるこれからの地域経済～

オンライン（zoom）含め 約50人の参加

※本来は1月開催予定であったが、コロナ禍で延期

・多くの意見として（事業者さんることを）「知らない」

　　どんな事業者が長岡市にあるのか知らない

　　市の責務として周知をしていく

⇒条例に「周知」に関する条項を追加

・ワークショップのテーマ

　　「まちのお店やさんを盛り上げるために自分

　　ができること」

　　「事業者・行政市民に期待すること」

### （3）3つの基本理念（条例第3条）

①中小企業の自主的な努力を基本とすること

・中小企業の創意工夫、経営意欲及び自主的な努力を尊重し、成長を図る

②中小企業が「育つ」環境を作ること

・特色ある地域資源を積極的に活用し、地域内における経済循環の促進に努め、中小企業の創業及び育成を図る

③相互理解から連携・協同へ

・中小企業をはじめ、経済団体、商店街、大企業、金融機関、学校及び大学等、市民並びに市がそれぞれの役割、責務等について相互の理解を深め、連携及び協働を図ることが大切である。

○（仮称）長岡市中小企業振興条例検討会

・令和4年度；3回開催し条例素案（パブリックコメント後の修正）

　　令和4年10月1日（市制施行50周年）に制定・施行

長岡市の条例の3つの特色

①条例上の中小企業には、法律でいう「中小企業者」だけでなく、市内で「農業、医療、福祉等」の事業活動を行う者も含む広い意味で定めています。

⇒長岡市では、事業所の99.6%を中小企業者が占めるが、歴史的な経過から、農業や、福祉・医療の事業者も多く、特に医療・福祉事業者は、雇用の受け皿としても大きな役割を果たしていることから拡大して想定。

②長岡市内に4つある商店街を「商店街の役割（第7条）」として独立した条項で役割を定めています。

⇒商店街の地域に根差した様々な取り組みは、地域の活性化や防犯などの地域の環境の整備を担っており、市民にとっても地域における身近な存在であり、情報発信や市民、商店街間、関係団体等との交流の場としての「役割」を規定。

③中小企業の役割として、多様性（年齢、性別、障がいの有無、国籍等）に配慮した労働環境の整備及び事業活動に努めるよう明記しています。

## それぞれの役割と責務

中小企業	市	経済団体	商店街
<ul style="list-style-type: none"><li>自主的な努力</li><li>働きやすい環境整備や多様性への配慮</li><li>当事者の視点を活かした中小企業振興施策への協力</li><li>活力あるまちづくりを行なう主体としての役割</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>中小企業を取り巻く状況やニーズの把握</li><li>関係団体と連携して施策を推進するための情報提供や情報交換</li><li>地元事業者育成や地域内の雇用促進</li><li>市民への啓発</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>中小企業の支援を行う最も身近な存在であり、振興施策を実施する主体</li><li>事業者のニーズを捉えてより効果的な中小企業振興施策を推進する団体としての魅力を高め、多くの会員を獲得</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>商店街活動が盛り上がりによって、まちにぎわいを生み出す</li><li>地域の活性化や防犯などの地域の環境整備</li><li>情報発信や市民、商店街間、関係団体等との交流の場としての役割</li></ul>
大企業	金融機関	学校・大学等	市民
<ul style="list-style-type: none"><li>地域経済へ与える影響の大きさを認識し、市内事業者へ可能な範囲で情報提供などの協力をする</li><li>事業活動にあたって、市内の製品・サービス等を利用するよう努める</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>創業や発展、承継といった企業のライフサイクルに応じた経営相談や情報提供</li><li>円滑な資金の供給など他の機関とも連携しながら支援する</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>次代の地域経済の担い手を育成することへの協力</li><li>中小企業との産学連携による協力</li><li>市や関係団体が実施する施策への協力</li></ul>	<p>「役割」ではなく「理解と協力」</p> <ul style="list-style-type: none"><li>中小企業の振興が市民生活の向上に果たす役割を理解する</li><li>中小企業振興施策に協力する</li><li>市内での消費が地域経済を支えることを理解する</li></ul>

### (4)みんながつながる交流会

#### 【目的】

中小企号振興基本条例の制定を機に、条例の目的や理念を事業者・市民に周知すると共に、市内事業所の課題解決に対する優良事例の発表、交流を促進する場

⇒最終の募集は「フリーランスOK」とLINE通知（事業所寄りの募集）

※市公式LINEお友だち数；8万人超（現在は9万人）

#### ・参加者

市内事業所・創業者・創業を考えている人など

#### ・内容； 1部で金融機関のおススメの事業展開をしている事業者の発表

2部でみんながつながる交流会、フリートーク、PRタイム

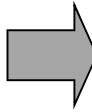
### (5)市内にある「お気に入りのお店」アンケートについて

令和4年10月に「中小企業振興基本条例」を施行しました。持続的なまちのにぎわいのため、市内事業者の99%以上を占める中小企業が「育つ」環境づくりに「みんなで取り組みましょう」という約束として生まれた条例です。

キックオフ企画として実施したのが、市民の皆さんに「お気に入りのお店」を教えてもらうアンケートです。令和5年2月にLINEや市内公共施設などで募集したところ、1,500件を超える回答がありました。令和5年度は、その内容を基に取材、この広報誌の連載が市内のお店を知り、足を運んでもらえるきっかけになりました。

## アンケート結果を市の広報誌で活用！

長岡市の魅力的な人物や商品、出来事などを市民ライターが取材し、市民ならではの目線で伝える「長岡京のきらり☆」



The image shows a page from the magazine '長岡京のきらり' (vol.01). The title is '食育に力入れ 天然素材のおいしさを届ける 和食ダイニング'. The text discusses the restaurant 'くらぼ' located at JR長岡駅前にオープンした居酒屋。The review highlights the natural ingredients and the restaurant's focus on traditional Japanese cooking. It includes a photo of the staff and a QR code.

### (6) 条例の事業者・市民への周知について

条例を事業者や市民へ周知しました。

#### ①団体への説明

市長の「対話のわ」・出前ミーティング

#### ②令和5年2月11日「みんながつながる交流会」の開催

⇒条例の周知、事業者間や市民と事業者の連携

#### ③お気に入りのお店 アンケート

⇒市公式LINE・市内公共施設・金融機関で「あなたのお気に入りをみんなのお気に入りに！」をキャッチコピーに、市民のお気に入りのお店を教えてもらうアンケート企画を実施

#### ④LINEクーポン祭おかげ（令和4年10月20日～11月16日）

⇒地域内の経済循環の重要性を事業者・市民が実感

市公式LINEを活用して、最大30%割引となるクーポン事業

268店舗のお店が参加、使用実績15万件以上

経済効果；3億7千万円以上（市の財政負担；1億1,200万円）

※臨時交付金活用事業

・酒屋に行列；5,000円購入しても3,500円で購入できた。

長岡市内にお金を落としてもらう仕組みを考えることが重要！

#### ⑤それぞれができるることを考える

まずは、中小企業の振興や地域経済の活性化を自分事として捉えて、相互理解、連携・協働を図ることが重要。



### (7) 中小企業基本条例に基づく市の取り組みについて

#### ①市の取り組み

##### ○契約関係

・最低制限価格の算出率の引き上げ(85%⇒92%)

・【建設工事】希望登録でも参加できる工種の追加(市内業者のみ)

・分離・分割発注の推進

- ・【建設工事】施行時期の平準化
- ・【建設工事】市内業者限定の区分を新設(500万円未満の舗装・解体)

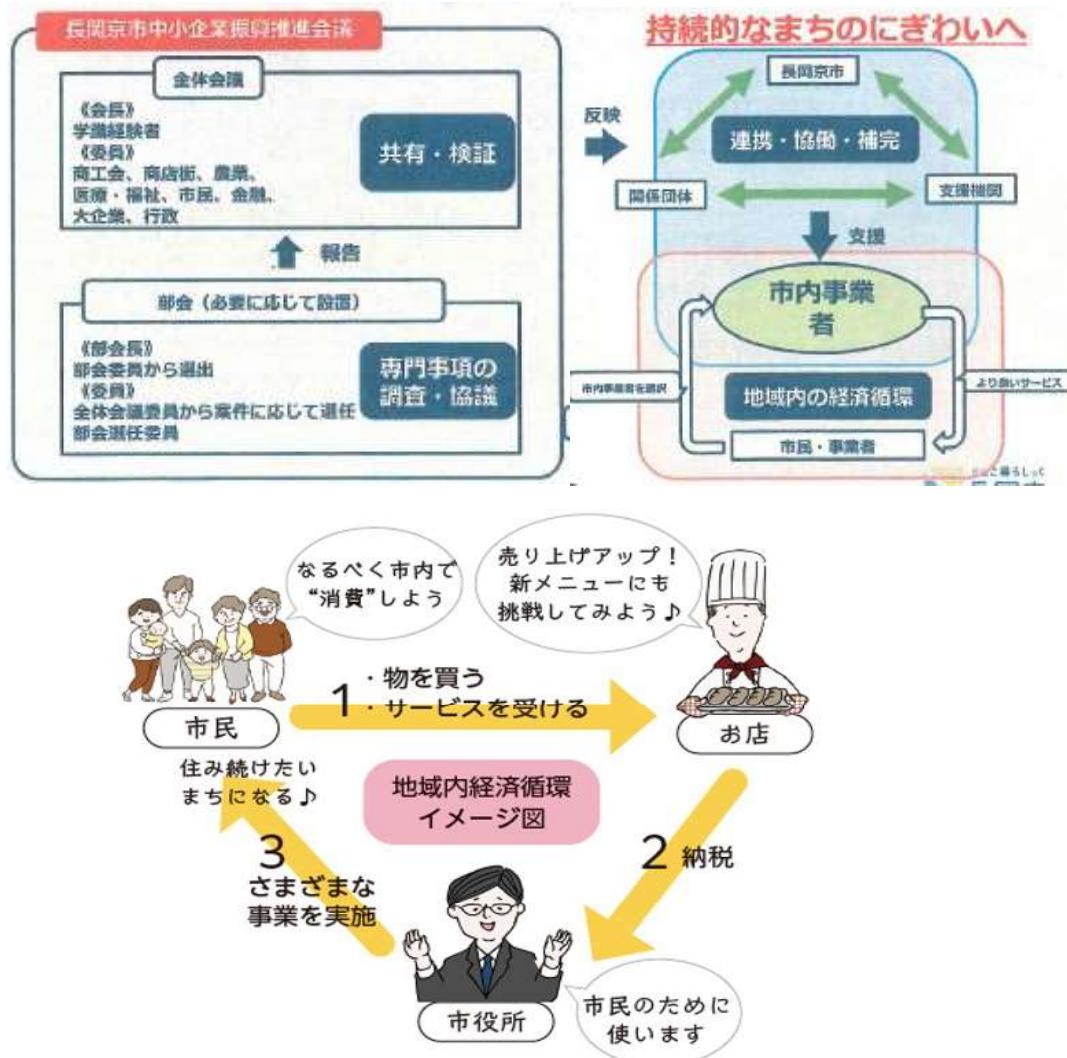
○情報発信

- ・市の広報媒体で事業者に関する情報発信を強化
- ・市公式LINEで「事業者セグメント」を設定し、事業活動に有用な情報をLINEでお届け

②中小企業振興推進会議について

○推進会議の目的(年2回開催)

市と関係団体が、地域経済の実態や将来の展望などの現状認識と課題を共有すると共に、目標や施策の方向性、役割を共有し、関係団体が実施する施策の実施状況やその効果の検証を行い、官民が連携して効果的な施策を推進する。



質疑応答	<p>質) 長岡京市商工会から「条例」制定の要望が長岡京市に提出された。市が事業者にアンケートを実施したところ回答率が6.4%と中小企業条例に関心がない大変な状況であった。通常であればここで条例制定が進まなくなるが、最終的には条例制定に至った。商工会の方のリーダーシップで進めてこられたのか、誰かキーマンがいたのか。</p> <p>答) 商店街の事業者が減り危機感を持っていた一人の商店街の会長がキーマンだった感じています。市長は、条例の主体は事業者で事業者の機運醸成が必要との認識で動いていました。市の商工観光課と商工会の両輪で動き条例化できたと考えています。</p>
------	---

	<p>質) 契約関係について聞く。入札関係は市内業者優先だと思うが、市外業者をどのくらい入れているのか。条例の中で枠組みが発揮できているのか。</p> <p>答) 市内に事業所の本社があることが基本です。京都市や向日市は、本社・もしくは支所があっても良いとなっています。市内の事業者が落札しているのが殆どですので市外は少なくなっています。建設工事は市内事業者限定の区分を新設し 500 万円未満の舗装・解体などとなっている。</p> <p>質) 分離・分割発注は指名か一般競争入札でやっているのか。</p> <p>答) 指名競争入札でやっています。</p> <p>質) 「LINEクーポン祭りおかわり」という、市公式 LINE を活用して、最大30%割引されるクーポン事業に268店舗参加して、使用実績15万件以上で経済効果3億7千万円以上で大変良い取り組みだが、群馬県内ではペイペイを利用した電子通貨基金事業が殆どだが効果はどうか。</p> <p>答) 国から来る交付金を可能な限り事業者さんへの還元を考えました。市の公式LINEから流せば無料で手数料がかかりません。長岡市はLINEと協定を結んでいます。LINEでおこないました。チラシからシステム作成まで全て課内の職員で対応しました。地域内の経済循環の重要性を事業者と市民が実感しています。長岡市内で使ってもらうことで市内の事業者への還元がはかれたと考えます。</p> <p>質) 中小企業振興推進会議を定期的にやっている説明を受けた。大変良い取り組みである。会議の頻度はどのくらいか。</p> <p>答) 半年に1回の頻度で開催しています。5月・6月は新しい事業計画が出てくる時の会議で、10月は次年度への予算を動かす時期になるので次年度の事業の形が見えてきます。会議の予算は3回確保しています。国からの事業者への交付金などが発生した場合には推進会議を開催して話し合います。</p> <p>質) 中小企業や事業者への応援との形でこの条例が出されてきたと考えます。金額でどのくらいの予算がついているのか聞きたい。</p> <p>答) 商工観光課からの補助金はありませんが、商工会の事業に対して市から補助金を出しています。耐震点検の補助金やリフォーム補助金として上限ありで 2 割分のプレミアムがつくものがあります。人気のある事業として、創業時の補助金としてテナント代が長岡市は高いので、3か月の家賃分の補助等を実施しています。</p> <p>質) 電子地域通貨を安中市はやる予定ですが、長岡市はやる予定はあるのか。</p> <p>答) 事業者は得感がないと動きません。ペイペイは振り込み時の手数料が大きいので検討しています。国の交付金に頼り、予算がなくなったからできないでは困るので、予算を考えながら検討していきたいと思います。</p>
市への提言 または要望	<p>長岡市では、令和4年10月コロナ禍のまっただ中、持続的なまちのにぎわいのために、市内事業者の 99%以上を占める中小企業が“育つ”環境を作るために「みんなで取り組みましょう」という『約束』としての「条例」を制定しました。</p> <p>市長は商工会から条例制定の要望書を受けた時に、条例の主体は事業者であり事業者の機運醸成が必要不可欠と判断し、直ぐには作らず、条例制定までにしっかりと計画で長い時間をかけて策定しました。現在は、遠くで生産・製造された食材や商品がインターネットやショッピングモールなどで気軽に購入できる時代になりました。遠くの商品が「簡単」「便利」に購入できることは魅力的ですが、地元のお店の元気が失われてしまう事を最も懸念し</p>

います。長岡京市では、中小企業の振興による地域経済の持続的な発展を目指し、地域の事業者や市民の皆さんらと共に条例を作っています。

中小企業の振興で地域経済の持続的な発展を目指しており、その実現のためには、中小企業だけでなく関係団体や市民一人ひとりが、「市内の中小企業の発展が市民生活の向上に繋がること」の理解を深め、市、市民、中小企業、関係団体等が一体となって、中小企業の振興施策を進めていくことで、地域内の経済循環を促していくことが重要との考え方作られています。市内で作られたものを購入することで、そのお店が元気になり、新商品の開発につながったり、市に税金を納めてもらうことで、市がさまざまな事業ができるようになります。地域内経済の好循環が生まれることで、より住みやすいまちになっていきます。

安中市でも地域経済を支える中小企業の振興のため、令和2年3月に中小企業振興基本条例を制定しました。この条例では中小企業振興施策の基本的事項や市の責務、中小企業者、関係機関の努めるべき役割などを示し、地域経済の活性化と併せ市民生活の向上を目的としています。しかし、制定するまでの計画的な機運醸成が全くない中で作成されたものですので、ほとんどの市民の方は安中市中小企業振興基本条例を知りません。また、条例制定の2020年3月後から新型コロナ感染症が一気にまん延したため、周知も全くできませんでした。改めて市民への理解や市の商工課と事業者、商工会と話し合う機会を設けるなど、中小企業の発展が市民生活の向上につながるということを発信していくことが大切です。

中小企業・市・経済団体・商店街・大企業・金融機関・学校・市民がそれぞれの役割と責務を今一度確認し合うことが大切だと考えます。また、市民からお気に入りのお店を紹介してもらい、安中市の魅力的な人物や商品、出来事などを市民ライターが取材し、市民目線で伝える広報誌を作成するなど、工夫した取り組みが必要と感じます。

現在の「安中市中小企業振興基本条例」をプラスアップして地域内の経済循環を促していく、市内で作られたものを購入することで、お店が元気になり、新商品の開発につながったり、市に税金を納めてもらうことで、市がさまざまな事業ができるようになり、地域内経済の好循環が生まれることで、より住みやすい安中市になります。長岡京市の取り組みを参考に、安中市の事業者に元気になってもらい、地域経済の発展に繋げられる視察となったと思います。

#### 視察内容【3日目】

視察自治体	京都府向日市
	向日市市議会議長 上田 雅 様
	環境産業部産業振興 消費生活センター長 農業委員会事務局長 尾田 政義 様
	向日市教育委員会教育部文教課 課長 浦元 大地 様 文化財係 山田 久美子 様
	 小林 委員
視察項目	 向日市 市議会議長 上田様
	1. 古墳を活用した観光について 2. 竹の径について
概要	向日市では、市内に数多くある古墳を文化財保護のみならず、観光振興に取り組む活動をしています。また、全国でも良質なタケノコの産地として知られており、竹林の景観保全と観

	<p>光振興のため「竹の経」を整備しています。安中市では国史跡の築瀬二子塚古墳があり、また、竹林の管理不全による住民被害が多発しています。向日市の取組が参考になると考え本市を視察しました。</p>
説明内容	<p><b>1 古墳を活用した観光について</b></p> <p><b>【向日市の概要】</b></p> <p>面積: 7.72 km<sup>2</sup> (安中市 276.31 km<sup>2</sup>) ※西日本で一番小さなまち</p> <p>人口: 56,428 人 (安中市 54,261 人 (R6.4.30 現在))</p> <p><b>【国史跡の古墳概要】</b></p> <p>長岡京市・向日市・大山崎町・京都市の一部に所在する古墳（現在は 13 基）を平成 28 年に「国指定史跡 乙訓(おとくに)古墳群」として指定されました。</p> <p>向日市では、そのうち 5 基が指定されています。</p> <p><b>文化財保護費 5 億 4,736 万円</b>  <b>(資料館費を除く)</b></p> <p><b>1.五塚原古墳…寺戸町柴山</b></p> <p>時期: 3 世紀中頃</p> <p>墳形: 前方後円墳</p> <p>全長: 約 91m</p> <p>埋葬施設: 橫穴式石室</p> <p>整備状況: 公園、階段、案内板、石碑</p>  <p><b>2.元稻荷古墳…向日町北山</b></p> <p>時期: 3 世紀後半</p> <p>墳形: 前方後円墳</p> <p>全長: 約 94m</p> <p>埋葬施設: 橫穴式石室</p> <p>整備状況: 一部公園、案内板、トイレ</p>  <p><b>3.寺戸大塚古墳…寺戸町柴山</b></p> <p>時期: 3 世紀後半</p> <p>墳形: 前方後円墳</p> <p>全長: 約 98m</p> <p>埋葬施設: 橫穴式石室</p> <p>整備状況: 公園未整備、竹林小屋、石碑</p> 

竹の経の一部を構成する古墳で、ライトアップなど幻想的な空間を作り出す役割も果たしている。



#### 4. 南条古墳…物集女町南条(私有地)

時期: 5世紀後半

墳形: 円墳

全長: 約 23.5m

埋葬施設: 木棺直葬か?

整備状況: 公園未整備、石碑、竹柵



#### 5. 物集車塚古墳…物集女町南条

時期: 6世紀後半

墳形: 前方後円墳

全長: 約 46m

埋葬施設: 横穴式石室

整備状況: 公園、案内板、石碑



#### 【古墳の活用例】

##### 1. 「アプリを活用」…「墳タビ! 物集女車塚古墳」

物集女車塚古墳でアプリを起動すると、AR(拡張現実)やVR(フルCG)を使って築造当時の古墳が目の前に存在しているかのような体験ができるアプリ。

導入時期: 平成 29 年 3 月配信開始。

ダウンロード数: 令和 5 年 3 月現在 10,243 人。



##### 2. 物集女車塚古墳の石室一般公開

横穴式石室を広く一般公開し、文化財の保護と活用の促進を図ります。

現地には案内員を設置。

開催時期…5月下旬～6月上旬。

令和5年度来訪者数 783名。



### 3. 寺戸大塚古墳 竹林小屋

令和元年の台風の影響で、以前からあった竹林小屋が倒壊した。市民から惜しみ声があがり、学校法人京都建築学園京都建築専門学校の生徒達が授業の一環として建築しました。



### 4. 多彩な歴史遺産パンフレット

古墳だけでなく市全域の文化遺産を紹介した歴史探索マップを作成。史跡めぐりのマップとして活用。その他、各々の遺産紹介を含めた全16種類のパンフレットで多彩な遺跡のPRをしています。



## 2 竹の経(たけのみち)について

### ○目的

- ・放置竹林による景観不備の解消や不法投棄を減らす。
- ・新たな観光資源の創設。

### ○詳細

- ・特産品であるタケノコを生産している向日丘陵に平成12年度から整備開始。
- ・8種類の竹垣が、全長1.8km(総延長2.5km)で整備された散策道。
- ・竹穂垣で使用する竹枝は、地元農家組合の協力により集荷しています。
- ・様々な賞を受賞しています。

#### 竹の経受賞一覧

- 「手づくり郷土賞」国土交通省
- 「全国遊歩百選」読売新聞社
- 「美しい日本の歩きたくなるみち500選」
- 「景観資産」京都府

「文化的景観」京都府

「行ってみたい新緑絶景ランキング 1 位」

じゃらん

竹の経・かぐやのタベ受賞一覧

「ゆめづくりまちづくり賞」快適都市実現委員会

「手づくり郷土賞」国土交通省

・観光客の増加やウェディングフォトの撮影場所にもなっています。

○課題について

観光客は増加しているが、飲食店やお土産などの商店が近くにないため、

観光客が地域で消費しないことが課題となっています。

そもそも宿泊施設が無く、人口過密のため、宿泊施設を建てる場所もない。

市街化調整区域も影響しており対策が非常に難しい。



観光入込客数:34万3724人。観光消費額 5859万2000円

一人あたりの消費額:約 170 円。(ジュース 1 本分)

竹垣等の経年劣化による定期的な修繕(10mあたり 20 万円)が必要。また、竹の経を含む向日丘陵の景観を守るために農家の協力が必要です。しかし良質なタケノコを育てるにはとても手間や体力もかかるため、行政と農家との話し合いをしている状況です。

令和 3 年より、竹林ボランティアを立ち上げ、毎週火曜日と土曜日の午前中に、竹の伐採や土入れ、タケノコ収穫作業などを行なっています。現在約 60 名の登録があります。

※質疑応答後、ただちに現地見学(寺戸大塚古墳竹林小屋、物集女塚古墳石室、竹の経)に向かい、説明を受けました。

質疑応答	<p>質) 安中市と違い手入れが行き届き竹林が綺麗である。どのように整備しているのか。</p> <p>答) 市が持っている竹林は殆どありません。殆どが私有地であり民地です。農家の方が手入れをされています。市としても何かできないかとの事で、2か所の荒れている竹林を貸してもらい、竹林ボランティアの方に竹林に戻す活動をしています。</p> <p>質) 来てもらった観光客にいかに市内にお金を落としていただけるかは大変重要である。駅前に「激辛のまち」との記載がありました。商店街が激辛メニュー等を売り出していると聞いたが、観光との連携はどうか。</p> <p>答) カラッキーと言うキャラクターがシンボルになっています。地元の商店街の方が激辛商店街として売り出しています。市のイベントでも街を盛り上げるために協力しています。なかなか消費につながっていないのが現状です。</p> <p>質) 竹林の整備しているボランティアの方等に保険に入るような指導はしているのか。</p> <p>答) ボランティア団体が約 60 名います。竹林保全のために土を入れたり、掘ったりする重労働もあるのでボランティア保険に入っています。保険代は市が支払っています。</p>
------	--

市への提言  
または要望

古墳群について、実際に石室の中を見学させていただいたことは、とても貴重な体験でした。安中市の築瀬二子塚古墳についても、多くの市民に文化遺産保護についての理解を得るためにも、定期的な一般公開を行ない、さらに、観光資源としての位置づけを強化していただきたいと思います。

竹の経について、伐採した竹の有効活用のアイディアや、魅力的な観光資源の創造など、その積極的な取り組み姿勢には学ぶことが多いと感じます。

しかし、古墳・竹の経のどちらにも言えることですが、観光客が地域で消費するための施策に苦慮していることが伺えました。

向日市と同様に、安中市も観光客に消費していただく仕組み作りに苦慮しています。空家・空き店舗の利活用や、温泉街・商店街等の活性化、さらに観光機構や民間との連携強化など様々な施策・実行を強く要望いたします。

